

嬉野市未来技術地域実装協議会
P T 2
来訪者の移動を支えるモビリティサービスチーム

(資料－3)

2022年の展開について

令和4年3月30日

パーソナルモビリティ

パーソナルモビリティ体験会

・嬉野温泉駅を中心に主要施設間の移動に関してパーソナルモビリティの試乗・体験を実施。（2～3台：4～5日程度の開催を想定）

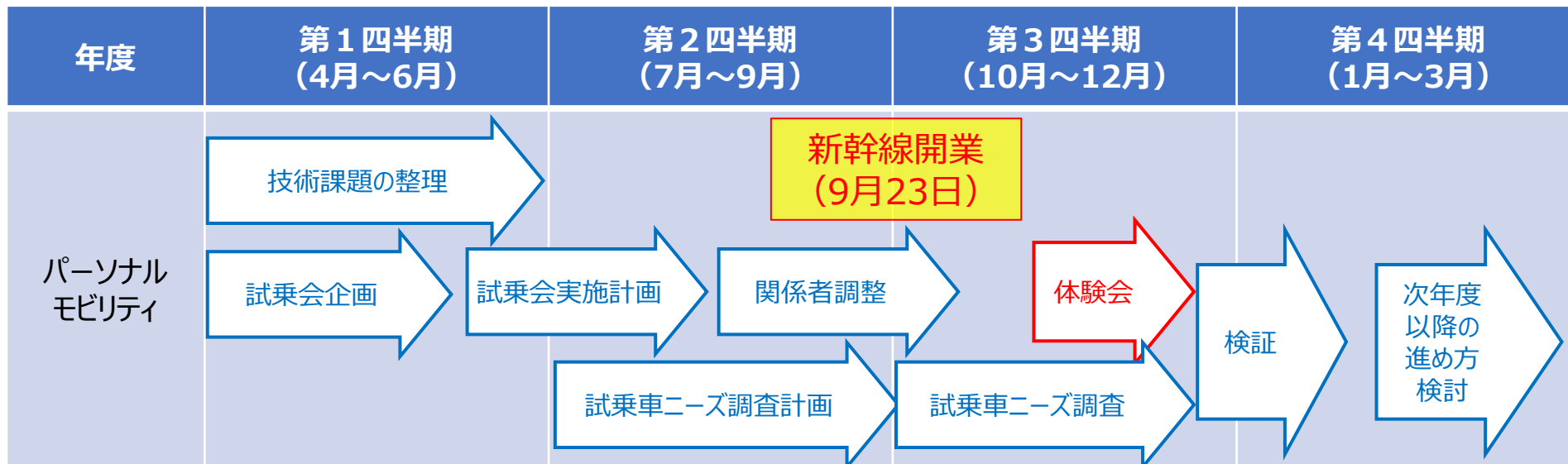
懸念事項の検証： 段差等の問題が無いか、歩行者との交錯は無いか、その他の事故の懸念は無いか

試乗者ニーズ調査の実施

・試乗車にアンケートを実施することにより、利用者の意見を収集

GPS等の課題把握調査の実施

・久留米工業大学の東教授と連携し、技術的な課題を整理。



パーソナルモビリティ



The video shows a woman sitting in a small, white, AI-powered mobility vehicle on a paved path. Several people are standing around her, some taking photos. In the background, there are trees and a building. A yellow banner at the top right of the video reads: “スマート”車いす体験搭乘 吉野ヶ里歴史公園を自動運転. A yellow banner at the bottom left of the video reads: 対話型AI自動運転車いす. A large white text box at the bottom of the video reads: 進めているので県内で体験会が開かれるの久南木工業大が産学官連携して開発は県内での体験会は初めて. The video player interface shows a progress bar at 0:29 / 1:50, a view count of 150, and a channel name of サガテレビ.

“スマート”車いす体験搭乘
吉野ヶ里歴史公園を自動運転

対話型AI自動運転車いす

進めているので県内で体験会が開かれるの
久南木工業大が産学官連携して開発
は県内での体験会は初めて

新たな移動手段 対話型AI自動運転車いす搭乘体験【佐賀県】 (21/10/08 18:50)

150 回視聴 サガテレビ 08

1 低評価 共有 保存 ...

<https://www.youtube.com/watch?v=wAdV9GG5wiU>

対話型AI自動運転モビリティ実証試験について

目的

- ・内閣府が推進する「Society 5.0」や「SDG's」の理念に基づき、**老若男女を問わず、すべての人がより利用しやすい駅チカ広場および温泉施設の未来像を模索する。**
～バリアフリーな移動手段が嬉野の周遊を援ける姿～
- ・久留米工業大学が三菱総合研究所やNTTドコモなどと産学官連携で研究開発と事業化を進めている**対話型AI自動運転モビリティ「パートナーモビリティ（車いすタイプ：詳細は後述）」**を用い、小型モビリティの自動運転がもたらす新たな観光サービスの可能性を示しつつ、**事業化に向けた市場調査と課題抽出を進める。**

実施内容

- ①新駅周辺試験（屋外）
- ②大規模温泉施設試験（ご協力いただける施設があれば実施）

その他

- ・追従モビリティ（パナソニック）や、軽自動車（ダイハツ）との連携試験も視野

①新駅周辺試験（屋外）

【実施時期および期間】

- ・時期：新駅開業後、少し落ち着いた時期（11月頃を予定）で検討中
- ・準備期間：周辺工事終了後に1週間程度
- ・試験期間：3～5日間程度（平日と休日を含む）

【実施内容】

使用車両：パートナーモビリティ（車いすタイプ）2台

想定顧客：①高齢のご夫婦 ②若いカップル ③小さなお子様連れの親子

ルート：北広場（イベント・足湯） ⇄ 駅前 ⇄ 南広場
（走行ルートは現場の状況を確認して調整）

体験内容：

- ・上記ルートの自動運転および遠隔操作の体験試乗
- ・対話による行き先指示など（AIリコmend連携なし）

体験料金：無料

①新駅周辺試験（屋外）

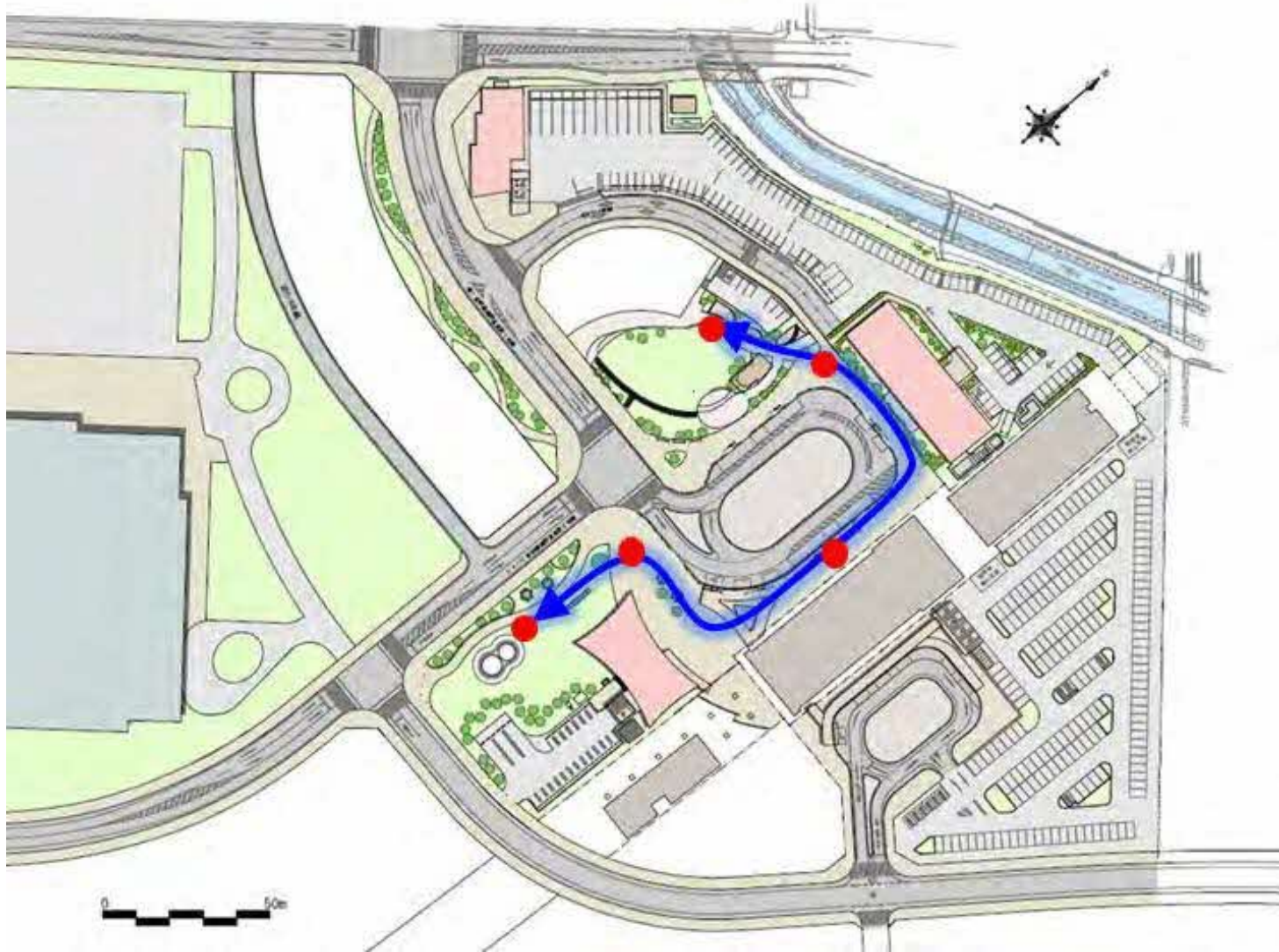


図. 新駅周辺試験 走行ルートイメージ

②大規模温泉施設試験（ご協力いただける施設があれば実施）

【実施時期および期間】

- ・時期：協力施設と調整
- ・準備期間：2, 3日程度
- ・試験期間：2日程度（平日）

【実施内容】

使用車両：パートナーモビリティ（車いすタイプ）2台

想定顧客：①高齢のご夫婦 ②その他

ルート：屋内および屋外の両面から協力施設と別途協議
（走行ルートは現場の状況を確認して調整）

体験内容：

- ・設定ルートの自動運転体験試乗
- ・対話による行き先指示など（AIリコメンド連携なし）

体験料金：無料

対話型AI自動運転モビリティ「パートナーモビリティ（車いすタイプ）」の概要

- ・久留米工業大学が産学官連携で開発した「AI対話型自動運転システム」をWHILL社の電動車いすに搭載した小型自動運転モビリティで、NTTドコモと共同開発した「5Gリモート手助け（遠隔操作、TV通話）」機能も搭載しています。
- ・2015年に開発をスタートし、これまでに吉野ヶ里歴史公園や東京ドームシティといった大規模テーマパークや美術館、ショッピングモール、空港、病院、介護施設など様々な場所で実証試験を実施してきました。
- ・近年では、観光庁のプロジェクトとして、自動運転とMR、VRを融合した新たな観光コンテンツの開発と実証試験にも取り組んでいます。



【システムの主な特徴】

- (1) 屋外、屋内どちらにも対応し、様々なシーンに導入可能
- (2) AI衝突回避や5G遠隔操縦などで万一のリスクを回避
- (3) 様々なモビリティやロボットに搭載可能

手ぶら観光を支える自動運転サービス

新幹線開業時における試乗会の実施

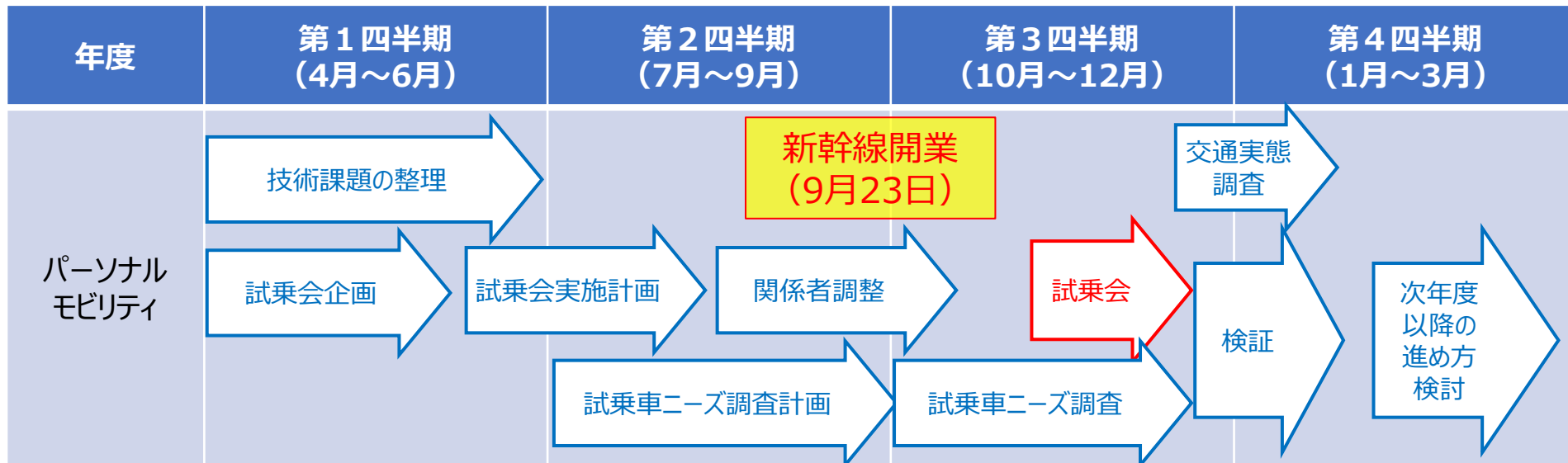
- ・嬉野温泉駅と中心市街地間の一部区間を候補として、自動運転サービスの試乗運行を実施（1台：4～5日程度の開催を想定）

試乗者ニーズ調査の実施

- ・試乗者にアンケートを実施することにより、利用者の意見を収集

開業後交通実態を踏まえた課題把握

- ・交通実態調査により自動車交通の状況を把握
- ・アンケート調査等の実施により二次交通手段の現況を把握



手ぶら観光を支える自動運転サービス



<https://www.youtube.com/watch?v=cbBrd3QSRm0&t=53s>

本格実装に向けてPT2会議で議論を重ね、段階的に進めます

運行課題・ニーズの調査

運行課題：障害物？車両？法制度？
ニーズ：駅利用者の行き先？
⇒ 各種調査を実施

運用方法検討

運用：手荷物受付の方法？
輸送方法？荷物管理？
輸送費用は？旅客は？

試乗会（自動運転車両）

・試乗会と調査を実施

改善・技術的改良

・運行上の課題把握・改善
⇒ 利用者アンケート等で把握

運用・管理体制構築

・運営者、運営方法、役割分担
・車両の維持管理体制

手ぶら観光・自動運転サービスの本格実装・対象範囲検討

・本格的実装
・対象範囲を検討（中心市街地？、バスセンター？、）